

明治維新で活躍した人材を育てた先進的教育 佐賀藩の教育と俊才たち



佐賀藩は幕末から明治維新、その後の日本の近代化で活躍する人材を多数輩出しました。その背景には江戸時代からの人材育成がありました。



長崎における佐賀藩士 1867(慶応3)年
左から副島要作、中島永元、副島種臣、相良知安、小出千之助、堤室真、大隈重信、中野健明、中山信彬

佐賀城内に誕生した聖堂

江戸時代、幕府が正式な学問として採用していたのが**儒学**(儒教)でした。

1691(元禄4)年、2代藩主**鍋島光茂**が佐賀城内二



調べてみよう?
明治維新で活躍した人には
どんな人がいるんだろう?



(大隈白言語)より

の丸に孔子をまつる「**二の丸聖堂**」を設けています。さらに、3代藩主**鍋島綱茂**の時代には、これを観願荘に移し「**鬼丸聖堂**」と名付けました。多久聖廟の設計・監督にも携わった儒学者**武富成亮**は、1694(元禄7)年、佐賀城下に「**大財聖堂**」を設けました。

治茂が着手した佐賀藩の藩政改革

1790(寛政2)年には、老中**松平定信**によって「**寛政異学の禁**」が出されます。これによって、儒学の中でも「**朱子学**」だけが江戸幕府における正式な学問とされ、他の学問を学ぶことが禁止されます。

さらに、幕府は、「**昌平坂学問所**」(昌平覺)を直轄の教育機関とし、若い人材の育成を推進してい



観願荘図 (財団法人鍋島覺政会提供)

観願荘は、佐賀城濠の外側南西に隣接した綱茂の別邸でした。

佐賀藩が生んだ偉人たち

西洋文明の導入で
佐賀藩を雄藩へ

(公益財団法人鍋島報效会提供)



なへ しま なお まさ
鍋島 直正
1814(文化11)年~1871(明治4)年

いしずる
札幌の礎を築いた
「北海道開拓の父」

(明治・大正期の北海道(写真編)より)



しま よし たけ
島 義勇
1822(文政5)年~1874(明治7)年

日本赤十字社の
生みの親

(日本赤十字社提供)



さ の つね たみ
佐野 常民
1822(文政5)年~1902(明治35)年

「正義人道の人」として
尊敬された外務卿

(佐賀県立佐賀城本丸歴史館提供)



そえ じま たね おみ
副島 種臣
1828(文政11)年~1905(明治38)年

教育制度の基礎を
つくった初代文部卿

(佐賀県立佐賀城本丸歴史館提供)



お お き たか とう
大木 喬任
1832(天保3)年~1899(明治32)年

司法制度を確立した
初代司法卿

(北海道大学附属図書館附属図書館所蔵)



え ぐち しん ぺい
江藤 新平
1834(天保5)年~1874(明治7)年

財政・外交面で大活躍
内閣総理大臣に2度就任

(佐賀市大隈重信記念館提供)



お お くま しげ のぶ
大隈 重信
1838(天保9)年~1922(大正11)年

きました。

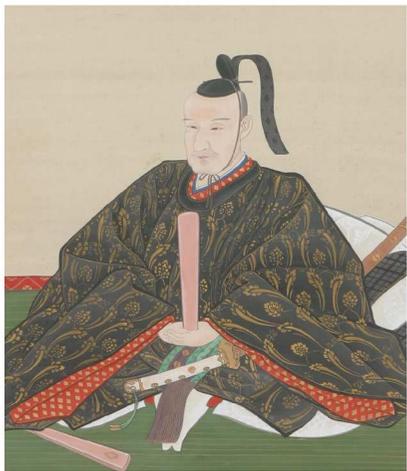
佐賀藩は、参勤交代や鎖国による長崎警備の負担が大きく、さらに、飢饉や洪水などの自然災害が発生することで、財政が常に逼迫していましたが、江戸時代後半になると、財政改革が急務となってきました。

8代藩主鍋島治茂は、財政を建て直すために藩政の改革を行いました。1783(天明3)年には、殖産興業を目的とした新しい役所「六府方」

を設置し、また、代官を地域に住ませ、直接農村の行政にあたらせました。そして、治茂がこれらの改革とともに重視したのが、教育改革でした。

藩校「弘道館」で人材育成をめざす

治茂は、円滑な藩政運営を行うには、それにあたる役人の資質によるところが大きいので、有能な人材を育てなければならないと考えました。そこで、教育改革の大きな柱として、1781(天明元)年、佐賀城下



鍋島 治茂

弘道館を創設した第8代佐賀藩主です。

(公益財団法人鍋島報効会提供)



弘道館記念碑

弘道館の跡地を示す記念碑。弘道館の敷地は広く、これより西側に校舎があったと言われています。

(公益財団法人鍋島報効会提供)

松原小路に「弘道館」を創設しました。

治茂は、藩の儒学者古賀精里を弘道館の教授に、治茂の相談役を務めていた石井鶴山を助教に用いました。

鶴山は、かつて熊本に遊学した際、熊本藩が藩校「時習館」における人材育成によって藩政改革を推進したありさまを学び、これを弘道館の運営に生かしました。

一方、精里は、のちに江戸の昌平坂学問所の教授となり、尾藤二洲・柴野栗山とともに「寛政の三博士」と呼ばれました。

9代藩主鍋島齊直の時代になると、古賀穀堂(古賀精里の長男)が1806(文化3)年に弘道館の教授に就任します。穀堂は、1809(文化6)年に「学政管見」を齊直に上申し、その中で、教育経費は削らず増やすべきだとし、教育の重要性を訴えました。また、学問に励まない藩士への戒めと学問を修めた者の登用、儒学だけでなく和

学(古典、国史など)や蘭学、医学などを広く学ぶことの必要性を主張しました。穀堂の「学政管見」は、当時としては先進的な教育提言でした。

鍋島直正による弘道館の再興

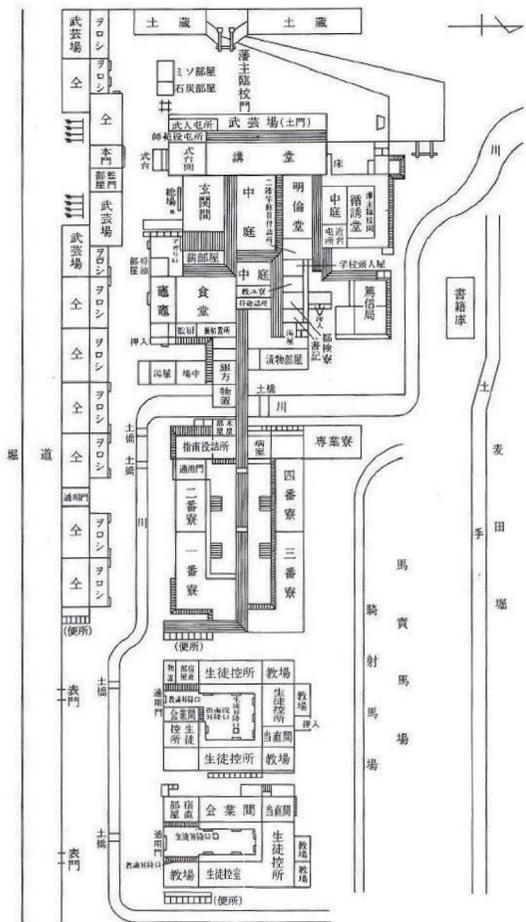
10代藩主鍋島直正は、1830(文政13)年に藩主となると、創設から50年近くたち、当初の目的からかけ離れつつあった弘道館の再興に着手しました。構想のもととなったのは、穀堂の「学政管見」でした。

1840(天保11)年、弘道館を松原小路から北堀端に移転し、広さを3倍にしました。ここには11の武道場が設けられ、7~8歳のころから16歳のころまでの藩士の子弟が学ぶ蒙養舎や、それを終えた子弟が寄宿し寮生活をしながら学ぶ内生寮、年長の者が通う拡充局などがありました。弘道館の責任者は実力があつた家老の鍋島安房(茂真)で、そのもとで、多久の生まれで全国的に著名であつた儒学者草場佩川、江戸で穀堂の弟古賀侗庵に学んだ武富圮南など、優秀な教官たちが教えました。



弘道館を臨む 鍋島安房の家から北堀端を隔てて見える弘道館の光景です。

(公益財団法人鍋島報効会提供)



(佐賀県教育史4巻より転載 原資料公益財団法人鍋島精效会提供)

北堀端の弘道館の図

開校の際、直正は、「文武を励み、国家の御用に立つ様、心掛くべし」と訓示しました。

者は、身分の上下に関係なく、佐賀藩の役人として登用されたり、留学の道が与えられたりしました。一方で、25歳までに定められた学問を修めることができない者は、一時的に家禄の一部を没収されたり、藩の役職に就くことができなかつたりする時期もありました。

弘道館では、儒学以外にも武芸として柔術、弓術、馬術などを教えました。

明治時代に活躍した副島種臣、大木喬任、久米邦武などが弘道館の教育にあたった時期もありました。

このような教育のため、佐賀藩士には文字の読めない者はなかつたと言われています。

武富圮南は、1855(安政2)年のころのこととして、生徒数を、蒙養舎約700名、内生寮約450名、拡充局約300名と記しています。

弘道館の教育は厳しく、実力主義が徹底されてきました。成績優秀な

佐賀藩が生んだ偉人の足跡を学ぼう

直正が建てた本丸を復元 佐賀城本丸歴史館



(佐賀市観光協会提供)

時代を先導した「幕末・維新期の佐賀」をテーマに佐賀城の歴史や佐賀藩の科学技術、佐賀が輩出した偉人に関する展示があります。

[住所] 佐賀市城内 2-18-1
[TEL]0952-41-7550
[開館] 9:30 ~ 18:00

佐賀のお殿様の博物館 徴古館



(財団法人鍋島精效会提供)

佐賀県内初の博物館で、鍋島家伝来の歴史資料や美術工芸品が展示されています。文化庁の登録有形文化財です。

[住所] 佐賀市松原 2丁目 5-22
[TEL]0952-23-4200
[開館] 9:30 ~ 16:00

佐賀藩近代化の軌跡と博愛精神 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館



(佐賀市提供)

佐野常民の偉業や博愛の精神を学ぶ拠点施設として、佐野常民に関する資料や遺品、三重津海軍所の資料などが展示されています。

[住所] 佐賀市川副町大字早津江津 446-1
[TEL]0952-34-9455
[開館] 9:00 ~ 17:00

日本初の政党内閣を率いた佐賀県の巨星 大隈重信記念館



(佐賀市提供)

大隈重信生誕125周年を記念して建てられました。大隈重信に関する資料があり、隣に生家が保存されています。文化庁の登録有形文化財です。

[住所] 佐賀市水ヶ江 2丁目 11-11
[TEL]0952-23-2891
[開館] 9:00 ~ 17:00 (入場は16:30まで)

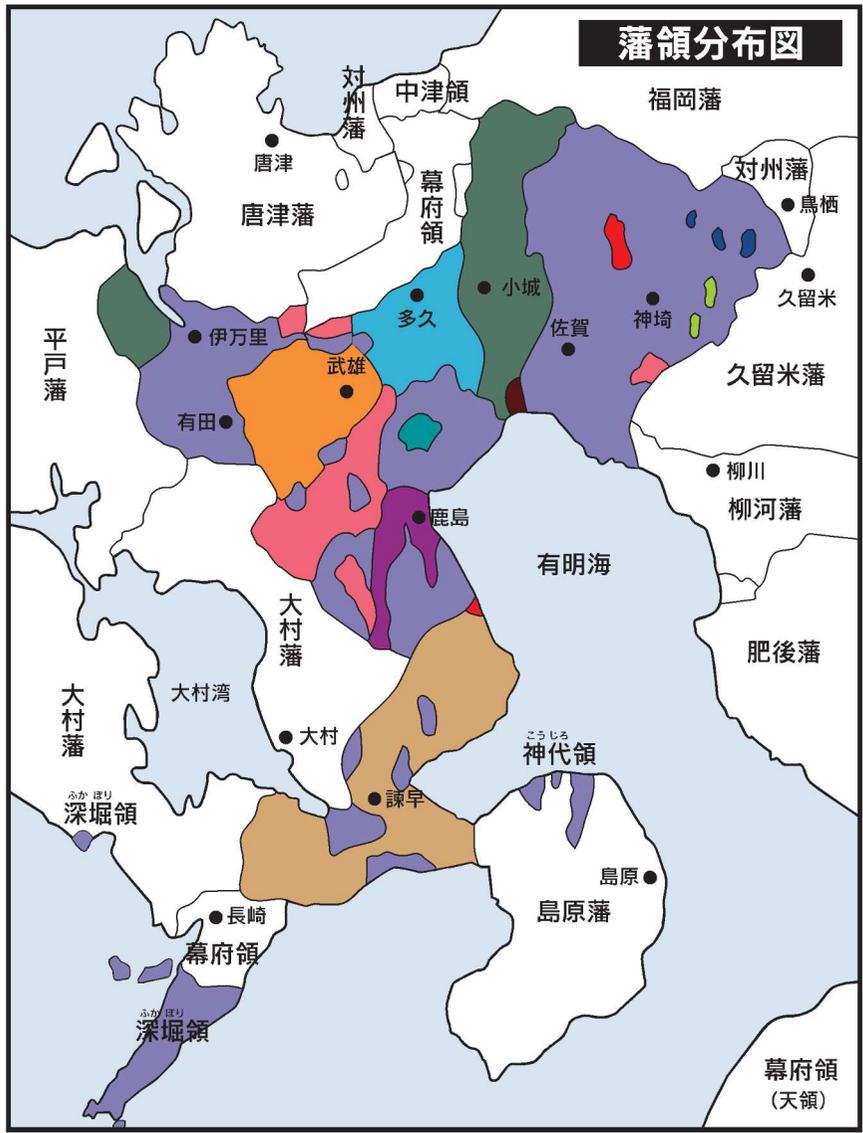


弘道館に所蔵された書物類 (佐賀県立博物館所蔵)

儒教の基本「五経」の一つである「礼」についてまとめた「礼記」や「古事記」などが使われていました。

弘道館からは、明治政府のもとで活躍した島義勇、佐野常民、副島種臣、大木喬任、江藤新平、中牟田倉之助、大隈重信、久米邦武などの多くの人材が育っていきました。

直正は、弘道館のほかにも、当時最先端の学問を身に付ける場を創設しました。従来の医学とともに西洋医学も学ぶことができる「**医学寮**」を設立し、さらに西洋の学問を専門に学ぶ「**蘭学寮**」も設立しました。「蘭学寮」では物理、化学、数学などの研究が行われました。



- 佐賀本藩領
- 小城支藩領
- 蓮池支藩領
- 須古領
- 村田領
- 久保田領
- 諫早領
- 武雄領
- 鹿島支藩領
- 白石領
- 川久保領
- 多久領

(佐賀市教育委員会提供)



中牟田 倉之助 (佐賀県教育史より)
 戊辰戦争や西南戦争で活躍した海軍軍人です。のちに海軍大学校長や枢密顧問官も務めました。

COLUMN

鍋島直正・三つの改革
財政再建・農村改革・教育改革

藩政改革を行った10代藩主・直正は「名君」と言われます。

改革①財政再建：借金体質の佐賀藩で、質素・倹約を奨励する一方、焼き物、石炭・蠶といった産業を発展させて財政を立て直しました。

改革②教育改革：財政再建で得た資金を教育に注ぎ込みました。

改革③農村改革：地主の農地を農民に分け与えることで疲弊した農村を救いました。

19世紀、日本中に農民一揆が起りましたが、佐賀藩では起こりませんでした。このことが直正の農村改革の成功を物語っています。

広く門戸を開いた東原庵舎

佐賀藩には、鍋島本藩と三つの支藩があり、そのほか、親類、親類同格の領地がありました。これらの各領主も、弘道館とは別に藩士の教育に熱心に取り組んできました。

多久領4代領主の多久茂文は、のちに「**東原庵舎**」と呼ばれる学問所を領内の東の原山麓に設けます。初代教授には**河浪自安**が就きました。「東原庵舎」が当時として先進的だったのは、武士の子弟だけでなく、農民や町人の子弟にも門戸を開いたことです。ここからは、明治時代に活躍した法学の鶴田斗南、電気工学の志田林三郎、物理学の飯盛挺造、炭鉱開発の高取伊好など、多くの人材が生まれました。

武雄領の「**身教館**」からは、岩倉使節団に副使として参加した山口尚芳がいます。このほか、「**興讓館**」(小城藩)、「**成章館**」(蓮池藩)、「**弘文館**」(鹿島藩)、「**思斉館**」(久保田領)、「**三近堂**」(須古領)など、佐賀藩内には多くの教育機関がありました。8代治茂が推し進め、10代直正まで引き継がれた教育改革は、佐賀藩内に強い影響力を与えました。

佐賀藩の教育は、幕末から明治時代に活躍した多くの人材を生んだ礎となっています。

学校の取組

【佐賀藩にまつわる劇の上演】

佐賀県立佐賀東高等学校
演劇部

郷土の歴史と人々の生きざまを伝えるために、県内外で劇を上演しています。



調べて書いてみよう!

身近な地域の出身者で、幕末から明治時代にかけて活躍した人を調べて書いてみましょう。



読んでみよう!

佐賀偉人伝01~15
 『鍋島直正』『大隈重信』『岡田三郎助』『平山醇左衛門』『島義勇』
 『大木喬任』『江藤新平』『辰野金吾』『佐野常民』『納富介次郎』『草場佩川』
 『副島種臣』『伊東玄朴』『枝吉神陽』『古賀穀堂』

佐賀城本丸歴史館刊

検索してみよう!

直正改革

東京遷都

歴代内閣

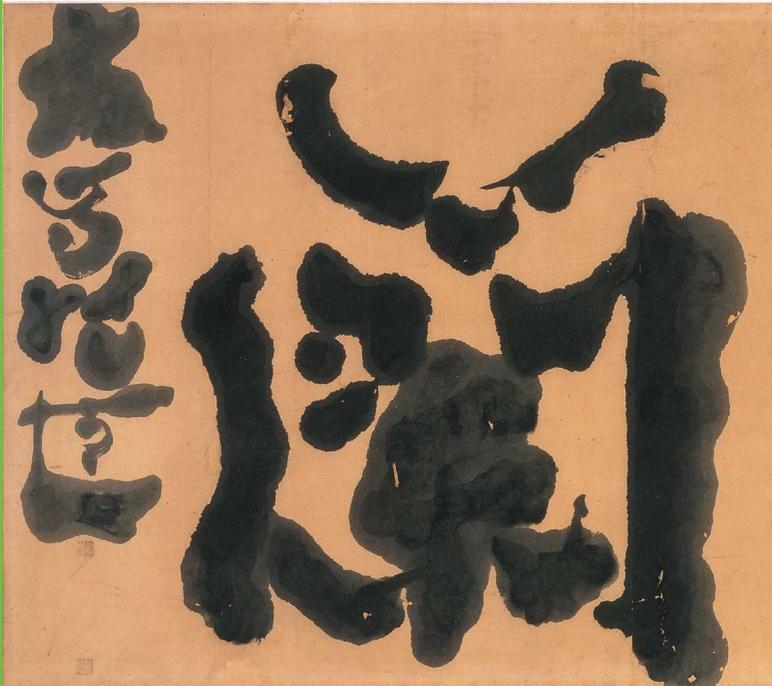


中林梧竹と副島種臣

明治時代に新しい書の表現をもたらした



書道の世界では知らない人はいないほど有名な
中林梧竹と副島種臣。二人は佐賀県出身で、ともに明
治時代屈指の書家に数えられます。



副島種臣「^{しんらん}初蘭」 初／蘭／副島種臣 (✓は改行) 屈原の詩「離騷」の言葉によったも
われます。書は、独特の造形をそな

古典を追求し、近代的に再構成した中林梧竹

「^{こうぼう}弘法筆を選ばず」ということわざがあるほど
^{くうかい}空海(弘法大師)は書に優れていました。室町時代の
とんちで有名な^{いっみやう おしろう}一休和尚も立派な書を残していま
す。江戸時代までは政治家や僧侶、官僚、学者などが
「書」を担っていて、専門的な「書家」といえる人はほ

調べてみよう?
二人はどんな作品を
残したんだろう?



(種彦松室原稿所蔵)

のと思われる。蘭の花をつないだ花がざりのことかと思
え、墨のにじみが不思議な世界を現出しています。

とんどいませんでした。明治時代に活躍した^{なかばやし こちく}中林梧竹は、書を業にした
最初の「書家」ともいべき人です。

梧竹は、1827(文政10)年に現在の佐賀県小城市に生まれました。梧
竹は、弟子をとることなくひたすら書を追求する、いわば芸術追求型の
生き方を貫きました。

明治時代、日本の書は大きく変化しました。^{しん}清(現在の中国)の新しい



(小城市立中林梧竹記念館提供)

中林 梧竹
1827(文政10)年～1913(大正2)年

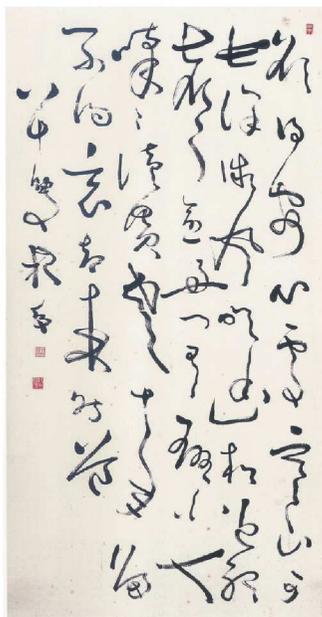


(佐賀県立佐賀城本丸歴史館所蔵)

副島 種臣
1828(文政11)年～1905(明治38)年

書の流行が日本に入ってきたのです。「**六朝書**」と呼ばれる、新しく入ってきた古典の資料を、日本で最初に本格的に取り入れたのが梧竹でした。

梧竹は幼いころから書に親しみ、情熱を注ぎました。「書聖」といわれる**王羲之**をはじめとする、中国の歴代の書を学び、研究を深めました。それにもとづいた独自の解釈が作品に反映しているのです。



(徳島県立文学書道研究所蔵)

中林梧竹「寒山詩」

欲得安心处 寒山可／長保 微風吹幽松
近職／声愈好 門有斑白人／晴々読黄
老 十年帰／不得 忘却来时道／八十度
梧竹 (／は改行)
唐代の寒山という人の詩を書いた80歳の作。書は、線と線が交錯してできる空間を鮮やかに描き出し、四方八方に自在に伸縮を見せ、梧竹の草書作品の特徴をよく現わしています。

梧竹は、王羲之の書を徹底的に習い込み、その解釈を作品表現に昇華しました。あらゆる時代の古典についても、独自の解釈にもとづき、表現に結びつけました。とりわけ梧竹の表現に見られる筆づかいや空間構成についてのこだわりは、書に生涯をかけた熱意の結晶でした。

独特の世界観を書に投影した副島種臣

一方、**副島種臣**の書は独創的で、見ただけでは何に倣ったのかわかりません。種臣は、漢詩を書くときには「**蒼海**」と名のりしました。しかし、種臣は梧竹のような職業的な書家ではありません。

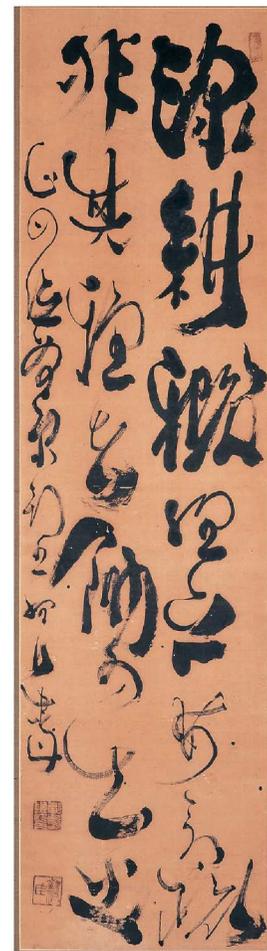
種臣は1828(文政11)年、現在の佐賀市に生まれました。幕末には尊皇運動に奔走し、明治維新後は外務卿や天皇侍講として激変する時代を生きました。種臣は、幕末・明治期にかけての激動の

日本を考える教養人として、自身の思想や志を表現するための手段として書を**揮毫**したのです。

※1 揮毫とは毛筆で文字や絵を書き記すこと。

その書は常識を大きく超越した独創的なものです。これは、種臣が独特な世界観をもっていたからと言えるかもしれません。中国や日本の歴史や哲学、文学などに通じ、高い教養を備えていました。

その書に対する評価は、彼の人格に対する深い敬意と重ねて語られます。種臣は、政治家や学者が書を担うという、中国や日本において伝統的な姿勢で書に臨みました。しかし、不思議なことに、その種臣の書は、現代のわれわれにも想像できないほど、新しい表現力をもっていました。発想の源が何であるかは、現代の私たちにとっても謎に満ちてい



(佐賀県立佐賀城本丸歴史館所蔵)

劉章「耕田歌」

深耕耨種 立苗欲疏／非其種者 鋤而去之／正四位菅原朝臣種臣 (／は改行)
漢の王族の劉章が歌った古詩を書いています。豪快で力づよい筆づかいと、細くて軽快な筆づかいの大きな落差など、まれにみる変化を見せながら、少しも計算高さを見せないところに種臣の気高く率直な人格がうかがえます。

COLUMN

身近にある種臣の書

皆さんの多くは毎日、種臣の書を目にしているのではないのでしょうか。佐賀新聞の題字は、種臣の書が使われています。



(株式会社佐賀新聞社蔵) 創刊当時の題字

ます。書一筋に専念し、職業書家とも言うべき姿勢で生きた梧竹とは対照的です。

種臣と梧竹は歳も近く、書をとおして親しく交際しました。梧竹の作品が天皇に献上されたときに、その幹旋をしたのは種臣でした。

夏目漱石の部屋に梧竹の書が掛けられていたという逸話があったり、漱石が「副島種臣の書を手に入れたが読めない」という内容の手紙をのこしていたり、彼らの書は当時から高く評価されていました。

書いた人の、書いたときの息づかいが蘇る



(小城市立中林梧竹記念館寄託)

中林梧竹「臨周尊銘」

電作／寶尊／周尊(右端)／梧竹(左端) (／は改行)
紀元前の周代の文字を参考にして書かれた書です。鋳込まれた文字の造形を自分なりのアレンジを加えて書かれています。線の輪郭を見ると、ぎざむように書かれていることがうかがえます。筆はしっかり制御されていて、おおよそ同じ太さの線で、左右対称の造形を美しく描いています。

COLUMN

ファンの多い2人の書

二人の書のファンは全国に多くいます。特徴的なのは、書道以外の芸術家のファンが多いということです。

さいとうもさち あいづ やいち
斎藤茂吉、会津八一などは梧竹の書のファンでした。

しがらみや おしやのこうじさねあつ さた
また、志賀直哉や武者小路実篤、北
おおじろさんじん むなかたしごろうなかがわがすまさ てし
大路魯山人、棟方志功、中川一政、勅使
かはらそうふう
河原蒼風などは種臣の書のファンでした。

書の面白さは、作品をじっくりと見つめていると、作者がどんな風に書いたのかが見えてくるところです。書に向き合ったとき、書いてある文字が「難しい」とか「読めない」とかという先入観を捨てることから始めましょう。そして、書かれた線をたどりながら眺めてみましょう。そこには、作者それぞれの息づかいやリズム、スピードなどが定着しているので、その人が書いている作業を再現する

ことができるのです。

その点で他の芸術とは異なり、書は数百年の歴史を超えて作者が書いた瞬間が蘇る、そういう意味で、作者とじかに対話ができる漢字文化圏特有の装置でもあるのです。

学校の取組

【書聖中林梧竹翁顕彰席書大会】

佐賀県立小城市立高等学校 書道部

席書大会を盛り上げるため、会場設営から表彰式まで顕彰会の方々とともに中林梧竹の生まれた地元の高校が活動しています。

調べて書いてみよう!

二人のそれぞれの作品にどんな特徴があるのか、調べて書いてみましょう。

読んでみよう!

『中林梧竹書』 『副島種臣書』
二玄社刊 二玄社刊

出かけてみよう!

小城市立中林梧竹記念館 (小城市小城市町 158-4)
梧竹の作品や遺品が展示されています。3か月に1回、展示品が入れ替えられます。
TEL 0952-71-1132 / 休館日 月曜日・祝日・年末年始 / 開館 9:00~17:00
(中林梧竹記念館提供)

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 (佐賀市城内1丁目 15-23)
歴史的資料や美術品が展示されています。博物館と美術館は隣接しています。
TEL 0952-24-3947 / 休館日 月曜日・年末年始 / 開館 9:30~18:00
(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館提供)

検索してみよう!

梧竹デジタルミュージアム 鎮國之山
マリア・ルーズ号 致道博物館 副島の書

日本洋画界の「日本初」の二人
百武兼行と岡田三郎助

佐賀市
(佐賀県立美術館)



日本における西洋絵画の黎明期に素晴らしい作品を残し、その後の多くの画家に影響を与えた人物が、佐賀県出身の百武兼行と岡田三郎助です。



母と子 百武兼行/1878(明治11)年 ロンドン滞在中に描いたとされる百武の代表作です。

(佐賀県立有田工業高校所蔵)



イギリスで絵を学んだ百武兼行

百武兼行は、1842(天保13)年、佐賀藩士の家に生まれました。8歳のときから佐賀藩最後の藩主・鍋島直大のそばに仕えてきました。

彼の最初の渡欧は、1871(明治4)年、岩倉具視が団長となった米欧回覧使節が派遣された際、直大の側近として、イギリスに渡ったときでした。1度帰国して2度目にロンドンへ渡ったとき、直大夫人胤子が絵を学ぶ際のつきそいとして同席したことが、百武が絵を学ぶ始まりでした。また、直大のそばに仕えるかたわら、経済学も学びました。



(佐賀城本丸歴史館提供)

百武 兼行

1842(天保13)年~1884(明治17)年



(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館提供)

岡田 三郎助

1869(明治2)年~1939(昭和14)年

政府役人としての立場であったため、絵の勉強は、仕事の合間に行っていました。西洋画は、まず風景画、次に人物画、そして最後に歴史画を学びます。百武は短い時間ながら、ロンドンで風景画、パリで人物画を習得しました。2度目の渡欧から帰国するとき、百武の才能を認めた直大は、パリに残ってさらに西洋画を学べるよう計



マンドリンを持つ少女 (公益財団法人須島朝政会所蔵)
百武兼行/1879(明治12)年/佐賀県重要文化財
巨大の計らいでパリに残り絵を学んでいたところに描かれました。

らいました。

日本初の洋画の裸婦像

百武は1880(明治13)年、イタリア公使となった直大に同行したとき、「**臥裸婦**」を制作しました。これは、日本初の洋画の裸婦像です。

百武の作品はほかにも、「**バーナード城**」や「**母と子**」、「**マンドリンを持つ少女**」などの絵が残されていますが、43歳で他界した彼が生涯に描いた絵は数少ないと言われています。当時は展覧会のような催しもなく、多くの人に認められる機会がないま

ま、プロの画家とはならなかったことが作品が少ない理由の一つです。しかし、日本の洋画界の先駆者となった百武の絵は、のちの**岡田三郎助**に大きな影響を与えました。

第1回目の文化勲章を受章 岡田三郎助

岡田三郎助は、1869(明治2)年、佐賀藩士の家に生まれました。岡田は8歳くらいから絵に親しんでいました。岡田が東京の佐賀藩屋敷に暮らしていたとき、近くに百武の家があり、そこに百武の描いた西洋画がありました。岡田はそれを見て心を躍らせ、画家になる決意をしたと言われています。

百武の絵に影響を受けた岡田の画壇での活躍は華やかでした。

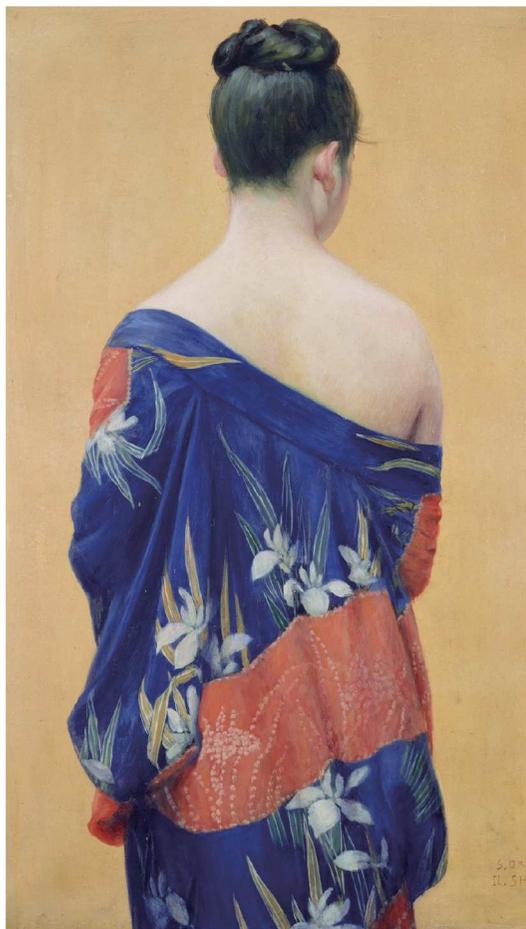
画塾で学び、その卒業制作として彼が24歳のときに描いたのが「**矢調べ**」です。この絵は翌年、明治美術会へも出品されることとなります。

岡田は、同じ佐賀出身の画家・久米桂一郎の紹介で**黒田清輝**と知り合います。1896(明治29)年、黒田、久米、藤島武二らとともに**白馬会**を設立しました。その後、洋画家としては日本で初めて、文部省派遣の留学生としてフランスへ渡りました。帰国後、1902(明治35)年に東京美術学校(現在の東京芸術大学の前身の一つ)の教授に就任しました。同じく教授だった藤島武二らと若い画家たちを指導し、その後の日本洋画の大きな流れを確立していきます。

1907(明治40)年には、東京勸業博覧会で岡田が描いた「**婦人像(紫調べ)**」が1等を受賞し、同年、岡田は文展(文部省美術展覧会。のちの日展)の



矢調べ 岡田三郎助/1893(明治26)年/佐賀県重要文化財
まだ絵を学ぶ立場だったころ、画塾の卒業制作として描かれた作品です。既に抜きん出た画力を持っていたことがわかります。



あやめの衣 岡田三郎助/1927(昭和2)年 (ボラー美術館所蔵)
女性のやわらかな肌と、藍色の友禅に朱色の鹿子絞りをあしらった帯状の模様が美しく調和し、日本人らしい感性と油絵の手法が見事に融合した作品として知られています。

明治時代、画家を目指し渡欧した日本人の多くは、迫力ある西洋画に圧倒され、日本人が西洋画を描く意味を考えました。岡田は、そこに和と洋の融合を見出しました。

浮世絵の人物画には、背景が描かれていない絵が多くありますが、西洋画の場合は人物画にも背景が描かれています。岡田の美人画の代表

第1回目からの審査員に就任しました。1934(昭和9)年には、現在の重要無形文化財保持者(通称:人間国宝)に相当する「**皇室技芸員**」にもなりました。そして、1937(昭和12)年に制定された**文化勲章**の第1回目の受章者となったのです。

日本的センスが西洋と融合し、「美」は生まれた

岡田三郎助と言えば美人画、と言われるほど、女性の優美さを描いたことで知られています。

明治時代、画家を目指し渡欧した日本人の多くは、迫力ある西洋

作「**あやめの衣**」を見ると、背景がなく、日本の**金屏風**を思わせるような、古くから受け継がれた和の技法も取り入れて描かれたことが分かります。「後ろ姿の美人画」という、日本の伝統的構図と西洋の写実主義が融合した見事な作品です。

佐賀県立美術館では、「OKADA-ROOM」として岡田三郎助を紹介する常設展示を行っています。佐賀県が誇る画家の軌跡を知るためにも、美術館や展覧会などにぜひ出かけて、本物を見る機会をもちましょう。

調べて書いてみよう！

佐賀県の画家は他に誰がいるでしょう。調べて書いてみましょう。



読んでみよう！

佐賀偉人伝03『岡田三郎助』
佐賀県立佐賀城本丸歴史館刊



出かけてみよう！



佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 (佐賀市城内1丁目15-23)
岡田三郎助の常設展示「OKADA-ROOM」では年4回作品を入れ替え。百武の作品が展示されることもあります。
TEL 0952-24-3947 / 休館日 月曜日 / 開館 9:30~18:00

岡田三郎助のアトリエ

東京・渋谷に残されていた岡田三郎助のアトリエを佐賀に移築し、平成30年4月1日から公開
TEL 0952-24-3947 / 休館日 月曜日 / 開館 9:30~18:00



検索してみよう！

百武兼行 ロンドン

文化勲章



日本の建築界を牽引した 辰野金吾と曾禰達蔵



日本銀行や東京駅を設計した辰野金吾。日本初のオフィスビル建築を手がけた曾禰達蔵。近代建築の生みの親は、佐賀県出身の人だったのです。



東京駅 [東京都千代田区] 辰野金吾 / 1914(大正3)年 / 国重要文化財
「辰野式」建築の代表作。東京大空襲で建物は損壊し形を変えていましたが、2012(平成24)

日本の建築界の礎を築いた辰野金吾

西洋建築を学んだ最初の日本人建築家はわずか4人で、そのうちの二人は、唐津の出身です。一人は辰野金吾、もう一人は曾禰達蔵です。二人は持ち前の実直さと勤勉さで、建築家及び教育者として大きな足跡を残し、近代日本の建築界の礎を築きました。

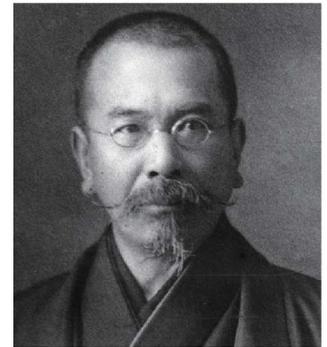


(川崎義典氏提供)

年に創建当時の姿に復原されました。

1854(嘉永7)年、辰野は、唐津藩の武士の家に生まれました。辰野は、唐津藩が設立した英語学校耐恒寮(現在の唐津市大名小路にあった)に赴任した高橋是清(のちの総理大臣)に英語を学びます。1873(明治6)年に東京に新設された工部省工学寮(のちに工部大学校、東京大学工学部の前身)に入学し、鹿鳴館※1の設計者であるイギリス人建築家ジョサイア・コンドルから建築学を学びました。

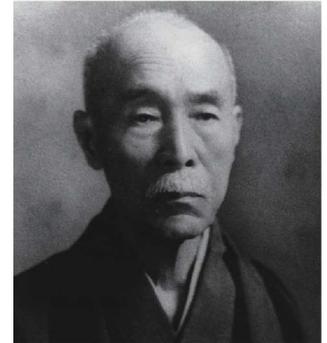
※1 明治政府が外国の外交官を接待するために建てた社交場。



(唐津市教育委員会提供)

辰野 金吾

1854(嘉永7)年～1919(大正8)年



(唐津市教育委員会提供)

曾禰 達蔵

1852(嘉永5)年～1937(昭和12)年



日本銀行本店 [東京都中央区]
辰野金吾 / 1896 (明治29)年 / 国重要文化財
(フリー素材)

辰野の作品の中で現存する最も古い作品。日本初の本格的石造建築です。



旧唐津銀行 [佐賀県唐津市]
辰野金吾 / 1912 (明治45)年 / 佐賀県重要文化財
(佐賀県観光連盟提供)

設計を辰野の門下生が、監修を辰野が行った作品です。



武雄温泉楼門・新館 [佐賀県武雄市]
辰野金吾 / 1915 (大正4)年 / 国重要文化財
(武雄温泉株式会社提供)

辰野が設計した数少ない和風建築の一つ。新館には古い温泉の資料などが展示されています。

工部大学校を優秀な成績で卒業した辰野は、1879 (明治12)年にヨーロッパ留学を命ぜられ、イギリスの著名建築家**ウィリアム・バージェス**に学びました。また1年をかけてフランス・イタリアを旅して、西洋建築の見識を深めました。

帰国後の辰野は工部大学校の教授に就任し、建築家や技術者の育成に励みます。辰野の門下からは多くの建築家が育ちました。同時に、**造家学会** (建築学会の前身)の設立や、画家・彫刻家との積極的な交流など、日本に西洋建築を根付かせるための活動も活発に行いました。

県内外に残る「辰野式」建築

辰野は建築家としても多数の作品を残しています。**日本銀行本店**、**東京駅**など、日本を代表する記念碑的な作品があります。佐賀県内にも**旧唐津銀行**や、和風建築の**武雄温泉楼門・新館**の設計監修を行っています。

その他、旧日本生命保険会社九州支店 (現在の福岡市赤煉瓦文化館)も手がけました。

辰野の建築作品は、赤煉瓦に白色の石を帯状に配し、塔やドームが賑やかに屋上を飾る外観で知られ、「**辰野式**」と呼ばれています。高さに対して幅が広いと、安定感があるとともに、堅実で細部まで辰野らしい工夫が見られます。

東京丸の内オフィスビルを手がけた曾禰達蔵

曾禰は、辰野と工部大学校の同級生であり、終生の友人でもありました。曾禰は、唐津藩主小笠原家からの信頼が篤かった武士の家に生まれました。戊辰戦争に幕府方につき参戦した経験から、時流に動じない一面をもっていました。国家を飾る建築家よりも「歴史家」になりたかったと語っていたそうです。

維新後に唐津に戻った曾禰は、辰野より先に耐恒寮に入り、高橋是清に師事しました。高橋が東京へ移った後を追って、1873 (明治6)年に新設された工部省工学寮に第1期生として入学し、建築学を学びます。

卒業後は、師であるジョサイア・コンドルの下で活動を行いました。まず、工部大学校の助教授としてコンドルを補佐しました。その後、海軍省勤務を経て、1890 (明治23)年、三菱社に入社し、東京丸の内に多くの**オフィスビル**を設計していきました。

定年退職後の1908 (明治41)年に、後輩の**中條精一郎**とともに**曾禰・中條建築事務所**を開業し、主に民間の事務所建築などにその能力を発揮しました。



福岡市赤煉瓦文化館 [福岡県福岡市]
辰野金吾 / 1909 (明治42)年 / 国重要文化財
(株式会社誠提供)

赤煉瓦に花崗岩の白い石、ドーム状の外観など、「辰野式」の特徴が顕著に見られる建物です。



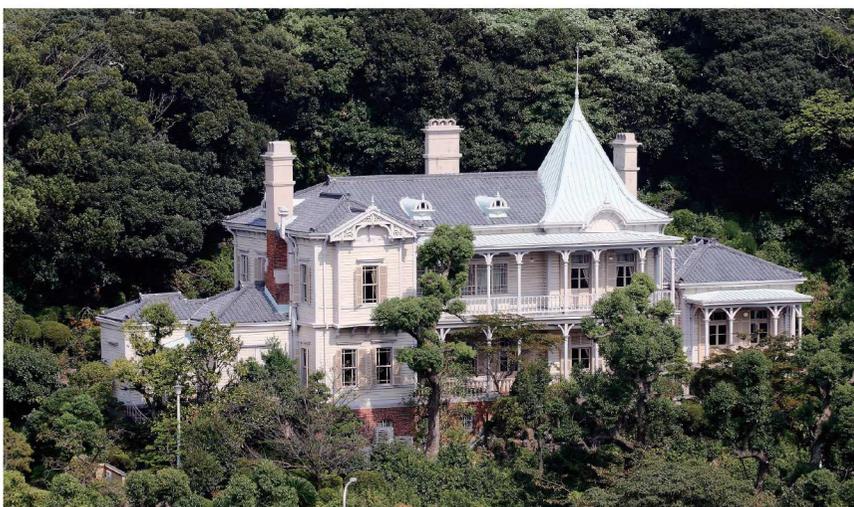
(神戸市まちのデザイン課提供)

旧三菱銀行神戸支店 [兵庫県神戸市]
 曾禰達蔵／1900(明治33)年／神戸市景観形成重要建築物
 曾禰の作品の中で現存する最も古い作品でしたが、2016(平成28)年に外観など一部を残しての解体工事が決定しました。



(慶應義塾提供)

慶應義塾図書館旧館 [東京都港区]
 曾禰達蔵／1912(明治45)年／国重要文化財
 慶應義塾創立50周年を記念して建てられた図書館。



(三菱重工株式会社提供)(非公開施設)

占勝閣 [長崎県長崎市] 曾禰達蔵／1904(明治37)年／世界遺産
 「明治日本の産業革命遺産」の構成要素として2015(平成27)年に世界遺産に登録されました。



(佐賀県観光局提供)

旧三菱合資会社唐津支店本館 [佐賀県唐津市]
 丸の内建築事務所／1908(明治41)年／佐賀県重要文化財
 曾禰が設計に関与したと言われている建築物です。唐津炭田の石炭を唐津港から積み出すための拠点の建物でした。

邸宅や都市内にふさわしい 品格のある曾禰の建築

曾禰の代表作には、**旧三菱銀行神戸支店**、**慶應義塾図書館旧館**、九州では三菱造船所迎賓館として長崎市に建てられた**占勝閣**が

あります。佐賀県内では、**旧三菱合資会社唐津支店本館**の設計に関与したと言われています。

曾禰の作風は、同世代の建築家が好んだ左右対称性や様式のルールを重んじる古典主義様式とは異なりました。左右対称を崩し、角に塔を設けて強調するなど、邸宅や都市にふさわしい外観を好むものでした。

優美かつ上品なその作風からは、曾禰の**温厚実直**な人柄とその教養の高さが偲べれます。

学校の取組

【唐津の文化継承活動】

佐賀県立唐津工業高等学校
 建築科

唐津工業高校では先人が関わった建造物の模型を製作しています。



調べて書いてみよう!

県内外にある辰野と曾禰の作品を調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



旧三菱合資会社唐津支店本館 (唐津市海岸通)

三菱商事から唐津市に寄贈され、1979(昭和54)年からしばらくは唐津市歴史民俗資料館として使用されていました。
 TEL 0955-53-7129(唐津市文化振興課)
 ※現在、休館中です。※秋の公開日のみ見学可能。

(佐賀県文化財課提供)



旧唐津銀行「辰野金吾記念館」 (唐津市本町 1513-15)

今では多目的ホールとして一般に広く利用されています。市民ギャラリーや音楽演奏会、公開講座などの文化イベントが不定期で開催されています。
 TEL 0955-70-1717/休館日 12月29日~12月31日 /開館 9:00~18:00
 (佐賀県観光局提供)

検索してみよう!

丸の内オフィス街

曾禰達蔵

辰野式



志田林三郎

電気技術の礎を築いた



電気がようやく実用化され始めたころ、既に100年先の電気技術を見据えていた志田林三郎。林三郎は、多
久が生んだ、日本の「電気工学の祖」と言われています。

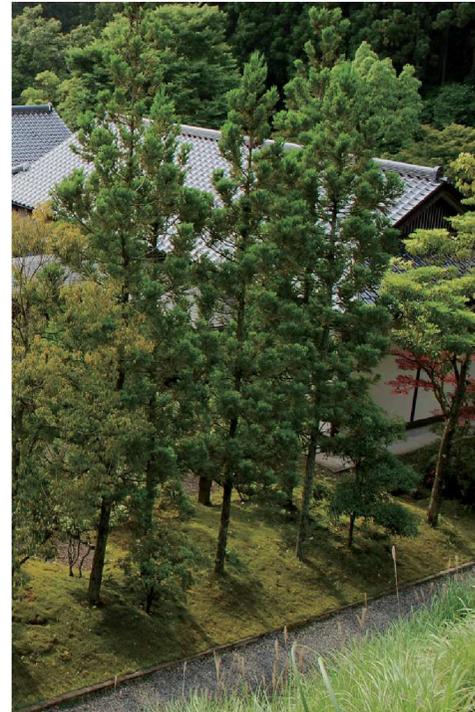


東原庵舎
佐賀藩の弘道館より約80年も前に設けられた多久的学問所で、林三郎が最初に学んだ学

多久に神童が現れた

志田林三郎は、1855(安政2)年、現在の多久市東多
久町別府に生まれました。この前年、ペリーは日本に2度目の来航をし、電信機をもたらし
ています。父親は、自宅で塾を開き村民に読み書きを教
えていましたが、林三郎が生まれて100日あまりで病気に

調べてみよう?
ペリーは電信機以外に
どんなものを日本へ
持ち込んだのだろう?

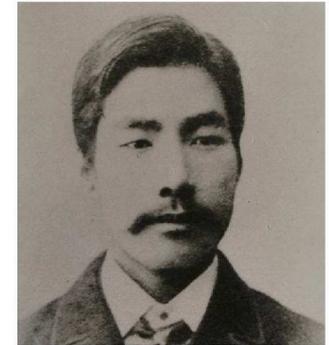


(公益財団法人孔子の里提供)

校です。1991(平成3)年に現代風に復元されました。
た。そんな林三郎にぜひ教育を受けさせるべきだという周りの大人た
ちの計らいで、林三郎には奨学金が与えられることになりました。林三
郎の活躍を信じ奨学金を願った周囲の大人たち、そして、教育に費用を
惜しまない多久的役所の英断で、林三郎の活躍が始まりました。

多くの師と出会い、才能を開花させた林三郎

1862(文久2)年、林三郎は、多久的学問所・東原庵舎に入
学しました。



(多久市郷土資料館提供)

志田 林三郎

1855(安政2)年~1892(明治25)年

より他界したため、母は一人で、
林三郎と二人の姉を育てること
になりました。

林三郎は5、6歳のころ、母親が
開いたまんじゅう屋を手伝うこ
とになりました。まだ計算の方法
を習ったことがないはずなのに、
素早く代金を計算する賢さに、大
人たちは大変驚き、林三郎は神童
とまで呼ばれるようになりました

そののち、イギリスから帰国した石丸安世^{いしまるやすよ}が伊万里の久原^{くばら}（現在の山代町久原）に開いた私塾・**経綸舎**^{けいりんしゃ}に入学しました。石丸との出会いから始まる多くの師との出会いが、その後の林三郎の活躍を支えました。経綸舎では、教師だったイギリス人技師**モリス**に、英語や数学、物理などを学びました。驚異的と言われた林三郎の英語力の基礎は、ここで磨かれたと考えられます。

1873(明治6)年には、東京の工部省工学寮(のちに工部大学校、東京大学工学部の前身)に第1期生として入学し、電信科教授だったイギリス人電気工学者**エアトン**に学びます。近代化に力を注いでいた明治政府の後押しもあり、工部大学校のエアトンの実験室は、当時世界一充実していたと言われています。また、エアトン自身の研究に対する情熱や、彼をはじめとした教授らの「技術の発展こそが社会に革命を起こ

COLUMN 林三郎を育てた人々



石丸 安世

明治政府で初代電信頭となりました。東京～長崎間、東京～青森間の電信線敷設の際には有田燦の碍子製作を発案しました。これは工業用ファイブセラミックスの先駆けとなりました。これらのことから石丸は「日本電信の父」と呼ばれています。



ウィリアム エドワード・エアトン

1878(明治11)年3月25日、エアトンは日本初の電気灯(フランス製アーク灯)を公の場で点灯させました。それが現在の「電気記念日」の由来です。帰国後もイギリスを代表する電気学者として活躍、特に電気計測機器の研究で知られています。



ウィリアム・トムソン (ケルビン卿)

イギリスの物理学者。絶対温度の単位「ケルビン」は、ケルビン卿が絶対温度を導入したことから名付けられました。発明王であるエジソンが唯一尊敬した人物が、彼といわれています。ウィリアム・エドワード・エアトンの師でもあります。



工学寮第一期生(撮影年不詳)

(自工部大学校史料所蔵)

(○が林三郎)工学寮の一期生には、佐賀県出身の建築家・辰野金吾や曾禰達蔵のほか、同じく建築家の片山東熊、理化学研究所創立者の一人で工学・薬学博士として知られる高峰譲吉など、近代日本をつくったとも言える人々が名を連ねています。

す」という考え方は、学生たちに大きな影響を与えました。

工部大学校を首席で卒業した林三郎は、1880(明治13)年、イギリスのグラスゴー大学に国費留学生として留学しました。ここで出会ったのが、ケルビン卿と呼ばれるウィリアム・トムソンでした。ニュートンに次ぐ偉大な科学者とされているケルビン卿は、林三郎を大変優秀な学生だと評価したと伝えられています。

100年以上前に無線通信を実験

1883(明治16)年に帰国した林三郎は、**工部省電信局**^{こうぶしょうでんしんきょ}に入局しました。その後すぐに、母校である工部大学校で日本人初の教授にも就任しました。林三郎は、電信局の技術官僚として、また、教授として人材育成と研究に力を注ぎ続けます。

林三郎による実験の中で特に興味深いのが、1885(明治18)年に

行った、^{すみだがわ みず りょう む せん つうしん じっけん}隅田川の水を利用した無線通信実験です。当時すでに、電線によって電気信号が遠隔地に伝えられることは分かっていたましたが、無線通信などは想像もつかない時代でした。しかし林三郎は、イギリスのケルビン卿が唱えていた「電気は波動(電磁波)となって空気を伝わるはず」という説から、電気信号も無線で伝えることができるはずと考えました。そこ

現代テクノロジーを見事に予測した林三郎

1888(明治21)年、林三郎が中心となって設立した電気学会での演説の中で「今後可能となるであろう十余の電気エレクトロニクス技術予測」として語りました。

下記は林三郎の演説を現代風に記述したものです。現代では何にあたるでしょう。

1本の電線により1分間、数百語のスピードで同時にいくつもの音声を送受信できるだろう。

電線を使わずに何kmも離れて、自由に通信や通話ができるだろう。

音声を伝達する方法が進み、例えば国内はもちろん、海外などの遠隔地で演じられている音楽を、東京にいながら楽しむことができるだろう。

送電の技術も発展し、例えば日光華厳の滝で発電した電力を東京に送り、電灯を灯したり車などを動かしたりできるだろう。

陸には電気で動く鉄道、海には電気で動く船舶の使用が増加し、鉄道や船舶からあがる黒煙を見ることがなくなるだろう。

電気で空を飛ぶ船が開発される。航空術も高度となり、空飛ぶ船に乗って絶景を楽しみ、名所旧跡を訪ねることができるだろう。

電気や磁気的作用によって、光を遠隔地に送り、遠くにいる人と自在に会うことができる方法が発明されるだろう。

電話のように音声を電気の波に変えて、演説などを記録できる器械が発明されるだろう。

地中の電気や磁気、空中の電気を観測して地震予知を行ったり、気象予報を行ったりといったことができるようになるだろう。

で、水に電圧を加えると電気分解するという性質を利用した通信の実験を行ったのです。

林三郎は、^{いくた}幾多の可能性を残して36歳で亡くなりました。今から100年以上前に無線通信を理論上可能と考え実験を行ったことは、電気工学において優れた先見性をもった科学者であったことを物語っています。

学校の取組

【小高連携事業(交流授業)】

佐賀県立多久高等学校

多久高校では毎年多久市内の小学生を招き、高校生たちによる工業実習体験等の授業を行っています。



調べて書いてみよう!

現在のエレクトロニクスはどのようなものがあり、今後はどのようなことが期待されているでしょう。



読んでみよう!

『志田林三郎傳-日本電気工学の祖-』

電気学会刊

『日本電信の祖 石丸安世～慶応元年密航留学した佐賀藩士』

慧文社刊



出かけてみよう!



多久市先覚者資料館(多久市郷土資料館)(多久市多久町 1975)

林三郎の肖像画、グラスゴー大学留学中に書いた論文が最優秀のクレランド金賞を受賞した際のメダル、直筆の漢詩などが展示されています。

TEL 0952-75-3002 / 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
12月25日～1月5日 / 開館 9:00～16:00

(多久市郷土資料館提供)



検索してみよう!

偉人伝志田

志田電気学会演説



森永太一郎と江崎利一

二大お菓子メーカーの創始者は佐賀県から



伊万里市

佐賀市

佐賀県出身の森永太一郎と江崎利一は、今も愛され続けている二大お菓子メーカーの創始者です。

発売当初の

森永ミルクキャラメル(1913年)
ミルクキャラメル バラ売り880個入
10斤(4,500g)缶
(1斤 60粒入/40銭)



森永ポケットキャラメル
印刷小缶(1908年)
(10粒入/10銭)

ポケット用
紙サック入りミルクキャラメル(1914年)
缶入りだったキャラメルは「もっと安価で携
帯できる容器を」という考えからこの形にな
りました。今の定番のパッケージは、社員のア
イデアで生まれました。(20粒入/10銭)

日本に西洋菓子を広めた、菓子王・森永太一郎

森永太一郎は、1865(慶応元)年、現在の佐賀県伊
万里市に生まれました。6歳のときに父を亡くし、幼
少期は親族の家を転々としたのち、陶器商となりま
した。24歳のとき、陶器の販売をするために渡米し
ますが、失敗に終わります。借金を抱えた森永は、そ

調べてみよう?

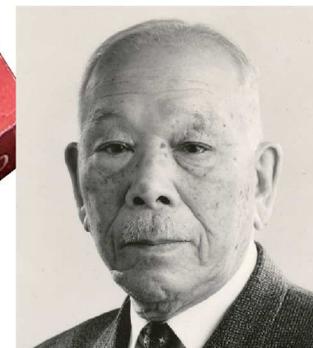
佐賀ではどんな
お菓子があったのだろう?



発売当初のグリコ(1922年)
グリコキャラメルの形状は一時角形でしたが、今は当初の立体的な
ハート形をしています。



森永 太一郎
1865(慶応元)年~1937(昭和12)年



江崎 利一
1882(明治15)年~1980(昭和55)年

のままアメリカに滞在し、職探しをしました。人種差別により就職も難
しいなかで、親切なキリスト教徒の老夫婦と出会い、洗礼を受けました。

その後、2度目の渡米で人生の転機となるキャラメルというお菓子に
出会いました。森永は、「おいしくて栄養価の高いキャラメルを日本の
子どもたちに食べさせたい」と思い、西洋菓子職人を目指したのでし
た。



赤坂田町時代に小売店に配布した額縁入りポスター

明治36(1903)年2月に赤坂田町に店舗を移転しました。このころ小売店に配布したポスターです。商品名が書かれています。

COLUMN

戦前の4大菓子メーカー

第2次世界大戦前の日本における「4大菓子メーカー」といわれるのが、森永製菓、明治製菓、江崎商店(江崎グリコ)、そして明治30年代、台湾で創業された新高製菓です(当時、台湾は日本の統治下にありました)。明治製菓を除く3つの菓子メーカーの創業者は、全て佐賀県出身。新高製菓は今はありませんが、ドロップやチューインガムの製造販売で知られていました。

ベーカリーで技術を学び、その後、キャンディー工場に就職し、西洋菓子の製造技術を学びました。このとき彼はすでに35歳、挫折を経ての再起でした。

1899(明治32)年6月に帰国し、同年8月に現在の東京都港区虎ノ門付近に「**森永西洋菓子製造所**」を開きました。まだ和菓子が主流だった時代に西洋菓子を日本に広めるため、森永は東京の一流の菓子店を訪ね歩きましたが、初めて注文を受けたのは、開業から2か月後のことでした。

創業からの数年間は、マシマロ(マシュマロ)やチョコレートクリームキャンデー類は評判になりましたが、キャラメルだけはバターやミルクの味になじみのない日本人にはなかなか受け入れられませ

んでした。風味を改良したり、また保存性をよくするため、製造方法を見直し、バラ売りだったキャラメルを一粒ずつ包装用の紙に包み込むなど、品質改良に工夫を重ねる日々が続きました。

そして、徐々に乳製品が愛好されるようになると、1914(大正3)年に開催された東京大正博覧会で、土産用として、携帯に便利なポケット用、紙サック入りのミルクキャラメルを発売しました。それが大ヒットとなり、そののち、「キャラメルと言えば森永」と言われるほど有名になったのです。

創意工夫をこらし続けた江崎利一

江崎利一は、1882(明治15)年、現在の佐賀市蓮池町に生まれました。高等小学校卒業後は、家業の薬屋を手伝い、弟妹の子守りをしながら、商売を学びました。

江崎は、1919(大正8)年、37歳のとき、**グリコーゲン**との運命的な出会いをしました。薬売りに出かけていたとき、早津江川の土手で漁師たちが大鍋でカキをゆで、そのゆで汁を捨てている様子を見かけ、江崎はかつて読んだ薬業新聞の記事を思い出しました。その記事の内容は、「体に良いグリコーゲンは、日本の貝類、特にカキに多く含まれている」という内務省栄養研究所長の発表によるものでした。

「カキの煮汁にもグリコーゲンが含まれているかもしれない」と考えた江崎は、それを分けてもらい九州大学で分析してもらいました。

江崎は、育ち盛りの子どもたちに喜んで食べてもらえるよう、グリ

森永のエンゼルマークは、マシュマロに由来します。アメリカではマシュマロのことを「エンゼルフード」と呼んでいたために、天使の絵と森永のMの字を使ってマークとしました。また、太一郎がクリスチャンであったことから、神の使いである天使を使うことは、神を崇めることに通じると考えたそうです。

マシュマロから生まれたエンゼルマーク



最初のエンゼルマーク 現在

(森永製菓株式会社提供)

(森永製菓株式会社提供)

江崎グリコのゴールインのマークは、八坂神社(佐賀市)の境内でかけてしている近所の子もたちの姿からヒントを得ました。両手を大きく上にあげてゴールインする姿を見て、「スポーツこそ健康への近道、子どもの遊びもまたスポーツにつながっている」と考えたのです。

健康を願ったゴールインマーク



創業時のゴールインマーク 現在

(江崎グリコ株式会社提供)

(江崎グリコ株式会社提供)



江崎グリコ株式会社提供

初期のグリコいろいろ

1922(大正11)年の創業当時から1939(昭和14)年ごろまでのグリコ。創業当時は缶入りもありました。おもちゃが付き始めたのは1927(昭和2)年からです。

コーゲンを当時人気のあったキャラメルに入れて成功を収めることになります。

江崎は、他社との違いを印象づけるため、商品の名称や形、デザイン、キャッチコピー、広告に至るまで考え抜き、商売の都、大阪で勝負しました。まず、伝統と歴史ある百貨店に売り込みました。最初は断られたものの、熱心に足を運び続けたことで相手が根負けしてしまいました。有名な百貨店に置いてもらったことで、他の店にも並べてもらえるようになりました。

そして、映画付自動販売機など



映画が見られる自動販売機

江崎グリコ株式会社提供

1931(昭和6)年に設置されました。10銭硬貨を入れると、グリコと2銭のお釣りがもらえるだけでなく、映画が数10秒見られる画期的な自動販売機でした。利益よりも話題を集めるために作られました。

COLUMN

日本初や珍しい広告

創意工夫の江崎グリコ。映画付自動販売機や大阪道頓堀のネオン塔をはじめ、今でこそ当たり前ですが、レコード会社とタイアップしてイメージソングを作ってCM放映するのを始めたのも江崎グリコです。一方、お菓子業界で新聞広告を最初に打ち出したのは森永製菓です。

当時では珍しい広告方法を次々に打ち出していました。

常に「創意工夫」を掲げていた江崎。そのアイデアやチャレンジ精神が今日の大企業の礎を築いてきたのです。

学校の取組

【地域連携プロジェクト】

佐賀県立佐賀農業高等学校
食品科学科

佐賀農業高校では、高校生ケーキカフェや販売所の運営を行い、地域との連携を図っています。



調べて書いてみよう!

どんなお菓子が、どんな思いで作られたのか、どんな宣伝がされたのか調べて書いてみましょう。



読んでみよう!

『森永太一郎青春伝』

集英社刊

『商道ひとすじの記-わがグリコ・わが人生九十余年』

日本実業出版社刊



出かけてみよう!



八坂神社 (佐賀市蓮池町蓮池 217)

八坂神社の近くに江崎利一の生家跡(現在は公民館)があり、その前には記念碑が建てられています

(佐賀市教育委員会提供)



森永公園 (伊万里市大坪町乙3-1)

森永製菓の乳製品工場跡地にある公園です。森永は出身地である伊万里市に工場を造ることで地域に貢献したといわれ、森永の胸像も立っています。

(伊万里市観光課提供)

検索してみよう!

森永の歴史

江崎記念館



石井亮一

日本で最初に知的障がい児教育を手がけた



「知的障がい者教育・福祉の父」と呼ばれている石井亮一。彼が始めなければ、日本の知的障がい者教育はずっと遅れたのではないかとされています。



石井亮一・筆子夫妻 「日本の知的障がい者教育・福祉の父」と呼ばれる亮一とその

青年期に二度の挫折を経験

石井亮一は、1867(慶応3)年、現在の佐賀市で佐賀藩士である石井家の六男として誕生しました。

亮一は、1874(明治7)年に佐賀の勸興小学校、1879(明治12)年1月に佐賀中学校の邦文科に入学しました。しかし、10月に校内に洋学所が設けられ



妻・筆子。 (社会福祉法人滝乃川学園提供)

ると、英文科に転科しました。

亮一は、反射炉や造船など、基礎としての理化学研究や英語に興味を持ちました。

亮一は、学業優秀な学生として鍋島家から奨学金を受けて、1883(明治16)年9月に工部大学校受験を目指して上京しましたが、幼少時からの病弱な体が理由で、体格検査で不合格となります。そこで亮一は、コロンビア大学で応用化学を専攻する道を目指すことにし、その準備のために、1884(明治17)年、立教大学校に入学しました。亮一は、ここでキリスト教と出会いました。この出会いが、亮一のその後の人生に大きな影響を与えました。

卒業後、渡米のための健康診断で「今の健康状態では海外留学に耐えられない」と診断され、渡米を断念せざるを得なくなりました。病弱な体のため、2度も挫折を経験することになったのです。

女子教育から孤女教育、そして知的障がい児教育へ

1890(明治23)年、亮一は、立教女学校の教頭として招かれました。その翌年の10月28日に岐阜県・愛知県を中心に濃尾大震災が発生しました。

震災で家と両親を失った少女たちの中には、誘拐され、人身売買される者もいました。この状況を知った亮一は、**孤女教育**への使命を感じたのです。

両親を失った少女たちを受け入れるために、まず、理解者である**志方之善**の協力を得て、その妻・**荻野吟子**の医院の一部を借りて、12月1日「**孤女学院**」を開設しました。そして、翌年の3月、**滝乃川村**（現在の東京都北区）の施設に移りました。

孤女学院で亮一は、知的障がい児に出会います。亮一は、知的障がい児にも「神の子」として等しく教育を受けさせる必要性を強く感じましたが、当時の日本には**知的障がい児教育**に関する資料がありませんでした。

そこで、1896（明治29）年と1898（明治31）年に、知的障がい児教育を学ぶために2度渡米します。知的障がい児学校を訪れ、知的障がい児の実態を知り、障が



（社会福祉法人滝乃川学園提供）

石井 亮一

1867（慶応3）年～1937（昭和12）年



（社会福祉法人滝乃川学園提供）

石井 筆子

1861（文久元）年～1944（昭和19）年



（社会福祉法人滝乃川学園提供）

孤女学院時代の子どもたち

子どもたちは封筒作りの作業を行っています。

いの程度に合わせた教育（例えば、重度の場合には衛生面の指導、中度の場合には自然の中での野外活動）などを学びました。

1回目の渡米から帰国した亮一は、本格的な知的障がい児教育に専念するために、孤女の受け入れを中止し、学園の名称を「**滝乃川学園**」に変更しました。日本初の**知的障がい児施設**の始まりです。

滝乃川学園の次に知的障がい児施設ができたのは、それから13年後のことでした。これ以降に知的障がい児施設が広がったことから、亮一が始めなければ、日本の知的障がい者教育はずっと遅れていたのではないかと、言われています。

滝乃川学園は亮一の個人経営であり、常に経営難に悩まされていました。何度も学園閉鎖の危機に直面していましたが、妻・**筆子**をはじめ、多くの支援者を得て、1920（大正9）年、**財団法人滝乃川学園**となりました。1928（昭和3）年に広



（社会福祉法人滝乃川学園提供）

滝乃川学園の授業の様子

知的障がい児施設になってから、男子の受け入れも始まりました。

COLUMN

一生で一度の嘘

亮一は佐賀中学校入学時、数え年で12歳でした。佐賀中学校に入学できる年齢は数え年で13歳だったので、願書の年齢を「十三才」にして出願し、合格しました。このことを亮一は「一生で一度の嘘」と告白しています。

COLUMN

滝乃川学園を支援した人々

勝海舟は、幕末・維新期に筆子の父や叔父との交流があり、筆子の事業に理解を示していたこともあり、滝乃川学園設立時から支援をしていました。滝乃川学園3代目理事長には、「日本資本主義の父」と呼ばれている渋沢栄一が就任しました。滝乃川学園は、大正天皇の頃から皇室の支援もありました。

COLUMN

亮一を支えた妻・筆子

筆子は大村藩士の娘で、教育者でした。亡くなった前の夫との間の子どもが虚弱児だったため、亮一の活動に理解を示し、バザーや観劇会などを開いて資金集めを行いました。経営費の3分の1は筆子がまかなっていたと言われています。

そんな筆子の生涯を映画化した「筆子・その愛」という作品があります。



農作業をする子どもたち (社会福祉法人滝乃川学園提供)
知的障がい児を農業に親しませ、自活の道を探ることを目的に農園をつくりました。当時のアメリカの知的障がい児教育を参考にしたものでした。

い土地を求めて谷保村(現在の東京都国立市)に移転しました。

亮一の生涯を貫いた道しるべ

亮一には座右の銘がありました。

いと小さき者に為したるは、すなわち我に為したるなり
(社会的立場が弱い者にすることは、つまり、神にすることである)

これは聖書の言葉です。この言葉があったからこそ、亮一は女子教育、孤女教育、知的障がい児教育の重要性とその使命を感じていました。

もう一つ、聖書の言葉からの座右の銘がありました。

愛は寛容にして慈悲あり

愛は誇らず、己の利を求めず、憤らず、人の悪を念わず

凡その事忍び、凡その事望み、凡その事耐ふるなり

(愛は寛容であり、情け深い。愛は誇らない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みを抱かない。すべてを忍び、すべてを望み、すべてを耐える)

亮一の死後、遺品の中からこの言葉が書かれた自筆の書が見つかりました。自分のことは多く語らなかった亮一でしたが、彼の座右の銘は現在も滝乃川学園に語り継がれています。

学校の取組

【ナーミー活動】

■ 佐賀県立中原特別支援学校

中原小学校3年生、中原中学校1年生と地域の方々200人ほどで、年に2回、20年もの間、ゲーム等を行い楽しく交流を深めています。



調べて書いてみよう!

石井亮一の他に知的障がい教育、福祉に尽力した人は誰がいるでしょうか。調べて書いてみましょう。



読んでみよう!

シリーズ福祉に生きる『石井亮一』
大空社刊

映画『筆子・その愛』
2007年/現代がぶるだくしよん



出かけてみよう!



社会福祉法人滝乃川学園石井亮一・筆子記念館
(国登録有形文化財指定) (東京都国立市谷保 6312)
滝乃川学園内にある、石井亮一・筆子や滝乃川学園の資料が展示されている記念館。元は滝乃川学園の研究活動の中心として使われていた建物です。
TEL 042-573-3950 / 休館日 土曜日・日曜日・祝日 / 開館 9:00~17:00
(社会福祉法人滝乃川学園提供)



検索してみよう!

女子教育 歴史

ヘレンケラー



黒田チカ

日本初の女性化学者「紅の博士」



女性が社会で活躍する機会が少なかったころ、のちに女性化学者第1号となる人物が、佐賀県に生まれました。天然色素構造研究に名をのこした黒田チカです。



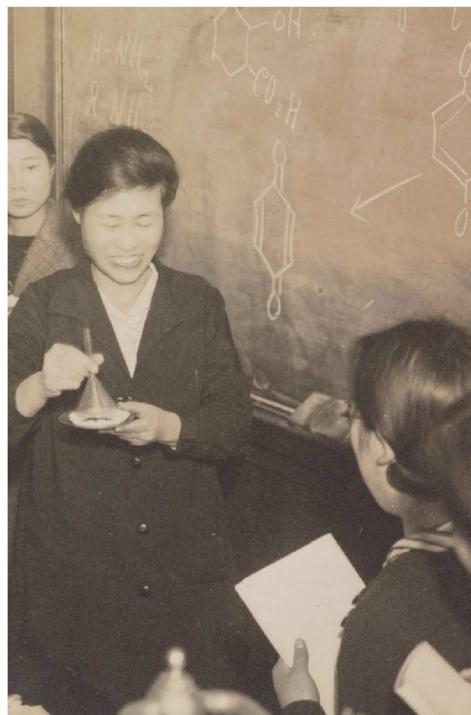
化学の授業風景 1939(昭和14)年。黒板の前で笑っている女性が黒田チカです。学

女子教育への理解者に育まれた幼少時代

黒田チカは、1884(明治17)年に現在の佐賀市松原で生まれました。チカの父親である黒田平八は、先見の明を持ち、女子への教育がまだ重視されていなかった時代に、7人の子どもに男女の隔てなく十分な教育を受けさせました。チカは、まだ就学年齢

調べてみよう?

黒田チカが生まれたころ、女性はどうな教育を受けていたんだろう?



生たちは熱心にメモをとっています。



(お茶の水女子大学附属図書館蔵)

黒田チカ

1884(明治17)年~1968(昭和43)年

に達していない4歳のころから、姉について尋常小学校へ通っていました。高等小学校、佐賀県師範学校へと進み、1902(明治35)年、東京にあった女子高等師範学校(のちの東京女子高等師範学校、現在のお茶の水女子大学)理科に進学しました。当時、女子の教育としてはこの学校が最高学府でしたが、1907(明治40)年、チカは、設立

されて間もない女子高等師範学校研究科に第2回生として入学しました。ここで出会ったのが、指導教官となった平田敏雄や、のちに「日本近代薬学の祖」と呼ばれた長井長義でした。もともと理科が好きだったチカは、よい教師との出会いもあり、化学に魅了されていきました。



紫根の結晶化に成功。日本初の女性理学士誕生

1913(大正2)年、女子の入学を許していなかった帝国大学の中で、東北帝国大学が、初めて女子に門戸を開きます。受験したチカは、見事合格しました。有機化学を専攻し、**真島利行**教授に師事しました。真島研究室は、漆の主成分**ウルシオール**の構造決定に成功したことで知られていました。天然色素構造に興味を抱いたチカは、真島教授の勧めもあり、卒業研究として「**紫根**※1の色素の構造研究」に取り組むことにしました。

※1 紫根とはムラサキと呼ばれる植物の根のこと。

日本では、紫は古くから格式の高い色とされ、紫根はその染料として珍重されていました。しかし、純粋な結晶を得ることは難しく、当時は、どの研究者も成功していませんでした。チカは、失敗を重ねながらもあ



(お茶の水女子大学附属図書館蔵)

オックスフォード大学時代の黒田チカ
オックスフォード大学のパーキン教授(W.H.Perkin Jr)のもとで学びました。



COLUMN

化粧品や薬にも使われています

チカが分子構造を決定した天然色素の一部は、のちの工業生産への道を開きました。赤色色素のカーサミンは化粧品に使われ、シコニンは薬用としても注目を集めています。

きらめることなく実験を繰り返し、純度の高い結晶を得ることに成功し、**シコニン**と命名しました。

1916(大正5)年、大学卒業と同時に、女性としては日本で初めての理学士になりました。新聞にも取り上げられるほど、女性理学士の誕生は当時の日本にとって画期的な出来事でした。

化学分野で国内初の女性理学博士に

卒業後も真島教授の研究室で助手※2として研究を続けたチカは、さらに紫根の結晶の構造決定に取り組みました。当時は、機器も技術も十分ではない時代でした。大学と下宿先を往復するだけの毎日を送りながら研究を重ね、1918(大正7)年、ついに構造式を得ることに成功しました。同年、東京女子高等師範学校に教授として赴任しました。

1921(大正10)年から2年間、文部省の留学生としてイギリスの**オックスフォード大学**で学ぶことになりました。帰国した1923(大正12)年に関東大震災が起こったため、東京の女子高等師範学校に勤めることができず、翌年、理化学研究所に入り、ここで**紅花**の研究を始めました。

紅花も古くから染料として使われてきましたが、紫根と同じく結晶化は難しく、構造決定には誰も成功していませんでした。チカは、紅花の色素である**カーサミン**の構造研究

COLUMN

怖がりだけど研究熱心だったチカ

学生時代、塩素ガスなどを扱う実験を怖がるチカに、同級生も苦笑い。そののちも化学の道へ進んだことに驚いたとか。

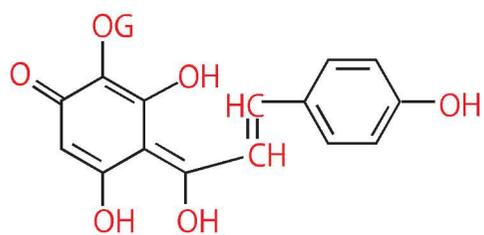


(フリー素材)

紅花

梅雨から梅雨明けの時期にかけて、真黄色の花を咲かせます。

※2 旧制大学において、助手の下で、研究等の補助をする人のこと。



カーサミン Carthamin
C₄₃H₄₂O₂₂

に取りかかり、1929(昭和4)年、紅花の構造決定に成功しました。これが、チカが「紅の博士」と呼ばれるゆえんでもあります。東北帝国大学から理学博士の学位を受け、女性としては国内で二人目、化学分野では第1号となる女性理学博士が誕生しました。

創薬にも成功。タマネギの外皮から血圧降下剤

その後もチカは、ツククサ、クロマメ、ナス、シソ、ウニ類の色素構造を次々に明らかにしました。そして、もう一つ大きな成果をあげます。

1943(昭和18)年、タマネギの外皮に含まれる**ケルセチン**という物質が、黄色の染料となることがわかりました。当時、ケルセチンが糖と結びついた**ルチン**という物質が、血圧降下の作用を持つことが知られていました。チカは、薬学の専門誌などの情報から、ケルセチンが血圧降下剤として活用できるのではないかと考え、結晶化に取り組みます。1952(昭和27)年、ついに錠剤がつくられ、翌年の臨床試験に成功し、高血圧治療薬として製品化されたのでした。

基礎研究の成果を、臨床で実用できる技術につなげたり、医薬品製造まで行ったりすることは、医学が発展した現代でも非常に難しいことです。チカは、女性の社会参加がまだ少なく、第二次世界大戦後間もない混乱した時代にもかかわらず、女性化学者として応用研究にも歴史的な業績をのこしたのです。

チカは、女性化学者の先駆者として高く評価され、東北大学は1999(平成10)年、お茶の水女子大学は2015(平成27)年、優れた女性研究者

を顕彰する「**黒田チカ賞**」を設けました。

研究と教育に人生を捧げたチカは、「すべての物に親しみをもって向かえば、必ず物が教えてくれて道は開けますよ」と語っています。また、チカはあらゆることに感謝の心を忘れませんでした。

チカの生き方は、何かを成し遂げるのに男女の別はなく、純粋な気持ちと真摯な姿勢があれば夢は叶うことを教えてくれています。

1968(昭和43)年、84年の生涯を閉じたチカは、大運寺(佐賀市伊勢町)に静かに眠っています。

調べて書いてみよう!

日本の女性科学者にはどのような人がいるか調べて書いてみましょう。



読んでみよう!

『紅の博士 黒田チカ』
豊増幸子刊



検索してみよう!

ウィリアム パーキン

色素女性化学者

色素構造



田澤義鋪と下村湖人

日本国民にあるべき人としての姿を示した



青年団の父と呼ばれる田澤義鋪は、その業績から、昭和11年に組閣された内閣に、内務大臣として入閣を求められたほどでした。田澤と彼を慕った下村湖人はどんな人だったのでしょうか。



初代日本青年館 青年団員が1人1円(現在の約2500円に相当)ずつ出し合い、補助も

田澤がのこした3つの業績—青年教育、明るい選挙運動、労使協調運動

田澤義鋪は、1885(明治18)年、現在の鹿島市高津原に生まれました。田澤は、大学卒業前に朝鮮と中国東北部を旅しました。そのとき田澤が目にしたのは、日露戦争に勝利した日本人の傲慢さと中国人に対す



調べてみよう
現在、佐賀県内にある青年団では、どんな活動をしているのだろうか？



(日本青年館提供) 寄付も受けず、1925(大正14)年、神宮外苑に開館しました。



(一般財団法人田澤記念館提供)

田澤 義鋪

1885(明治18)年～1944(昭和19)年



(下村湖人生家保存会提供)

下村 湖人

1884(明治17)年～1955(昭和30)年

る非人道的な扱いでした。下村湖人著『この人を見よ』には、このときの田澤はひたすらに恥じ、おそれ、悲しみ、憤ったと書かれています。そして、今何よりも大事なことは日本を「道義国家」にすることだと考え、そのことに生涯を捧げたのでした。

田澤は三つの業績をのこしました。一つ目は、**青年教育**です。1914(大正3)年、静岡県での郡長時代、10～30代の働く青年たちと宿泊研修を行

い、寝食を共にして、憲法の意義や人としての生き方などの講義を行いました。また、1925(大正14)年、日本青年館の開館式で「道の国日本の完成」と題して記念講演を行いました。

田澤は、青年団※1の本質は郷土愛だと考え、「錦を着て郷土に帰ることを願う前に、先ず郷土を錦とすることを願え」(『この人を見よ』より)と、あらゆる機会に訴え続けました。田澤の青年教育は、のちに昭和天皇が青年団についての説明を求めるほどでした。

※1 地域活動や社会活動を行う学生以外の10~30代の若者の団体。

二つ目は、**明るい選挙運動**です。当時はお金で票を集めるような選挙もありました。そこで、田澤は総選挙に出馬し、不要な資金や不正票のない選挙を行動で示しました。残念ながら僅差で落選しましたが、手応えを感じ、その後も**明るい選挙運動(選挙粛正運動)**を続けたのです。

三つ目は、**労使協調運動**です。労使協調とは、労働者と使用者が互いの目的のために協調し合うことです。1918(大正7)年ころ、労働争議が頻繁に起こりました。この状況を打開するために、実業界の重鎮である沢

COLUMN

宿泊研修の内容

1914(大正3)年、静岡市の蓮永寺で1週間の宿泊研修を行いました。日中は講義、夜は課外講話が行われ、講義は座学のほか、県庁での実地見学も行われました。田澤は郡長でありながら、青年たちと同じ食事を食べ、同じように便所掃除も行いました。

COLUMN

青年たちが
明治神宮を造った

田澤は30歳のときに明治神宮造営局総務課長となりました。明治神宮の造営工事は1915(大正4)年から1920(大正9)年にかけて行われましたが、期間の中ごろから物価の大暴騰・労力不足に見舞われました。そこで田澤は地方の青年たちに造営工事の協力を仰ぎ、併せてこれを教育の機会としました。最初は難しいと思われていましたが、青年たちの働きぶりは政府を驚かせるほどでした。

沢栄一らは、財団法人協調会を作りました。田澤はその責任者に任命され、1921(大正10)年に、労働者や使用者を対象として労務者講習会を開催しました。その際、田澤は、何度も「我々は資本家であり、労働者であり、官吏であり、教員であり、党员である前に、立場を超えてまず人でなければならない」と訴え続けました。

田澤は、第二次世界大戦が終結する前に亡くなりますが、戦争中も平和主義を訴え続けました。

「平凡道を非凡に歩め」という田澤がすすめた言葉があります。これは、生活の中で毎日必要な当たり前のことを、当たり前ではなく人一倍念入りに行うという意味です。田澤の生き方は、人として当たり前の姿を、信念をもって貫いたものでした。

田澤の意思を受け継いだ、下村湖人

しもむら こうじん
下村湖人は、1884(明治17)年、現在の神崎市千代田町に生まれました。熊本の旧制第五高等学校で田澤と出会い、信頼し尊敬する友として、終生変わらぬ友情を深めました。



浴恩館 現在は改修されましたが、東京都小金井市の歴史や生活に関する資料が展示されていました。
(小金井市文化財センター提供)

下村は大学卒業後、母校旧制佐賀中学校の英語教師となりました。その後は、旧制の鹿島中、唐津中、台中第一中、台北高校の校長などを務めます。

また、勤務校や他校から依頼を受けて、校歌も作詞しました。

下村は、1931(昭和6)年、当時勤めていた台北高校の校長を辞任し、田澤が東京都小金井に開設した青年団講習所(浴恩館)所長となり、青年教育に従事します。

下村は、それぞれが個性を大事にしながら生きることを望み、それには、各自が自分で生きる工夫をすることが大切だと信じていました。一見放任主義に見えるこの指導方法は、田澤の指導方法でもありました。自分で自分を律することができる者だけが自由を獲得できる、という厳しいものでした。

下村は、青年教育の傍ら、講演や文筆活動も行います。青年団講習所での実践記録を物語化したのが、下村の名作『次郎物語』の第五部です。

『次郎物語』は、幼少期に皇子に出された本田次郎の成長を描いた作品で、戦前と戦後に計4回映画化され、NHKの連続テレビドラマにもなりま

下村湖人が作詞した主な校歌

佐賀県立唐津東高等学校校歌 天日輝き

(歌い出し)

天日かがやき 大地は匂い
潮風平和を 奏づる郷に

唐津市立第一中学校校歌

(歌い出し)

玄海の波 照りかえす
あしたの光 身にあびて

鹿島市立鹿島小学校校歌 われらのいのち

(歌い出し)

桜咲く 鹿島の里に
多良が嶺を はるかに仰ぎ

COLUMN

下村が田澤を慕うようになったエピソード

第五高等学校時代、寮に大食い(おっ)の学生がいて、いつもお櫃を占領していました。それを嫌がった学生たちが彼に仕返しをしようと企んでいたとき、たまたまそれを聞いていた田澤が「自分たちが不愉快に思ったことを、今度は自分たちがするのかね」と何気ない顔で言いました。その様子を見ていたのが下村です。下村は田澤のその言葉で、心から田澤に感心したそうです。

した。下村自身や田澤をモデルとしている人物も登場します。この小説からは、二人の生き方をより実感することができます。

田澤と下村の足跡からは、人として当たり前のことを大切にして生きる姿勢を学ぶことができます。

市町の取組

【下村湖人生誕祭】

■神崎市

毎年湖人が生誕した10月3日に、児童生徒が制作した読書感想文や湖人生家のスケッチに対し表彰式を開催しています。



調べて書いてみよう!

下村湖人の作詞した他の校歌を調べて書いてみましょう。



読んでみよう! 下村湖人の著作を読んでみよう!

『次郎物語』 新潮社刊
『青年の思索のために』 PHP研究所刊
『論語物語』 講談社学術文庫刊
『この人を見よ 青年団の父 田澤義鋪』 田澤義鋪顕彰会刊



出かけてみよう!



田澤記念館 (鹿島市高津原城内 434)

田澤義鋪の生家跡にあります。研修や啓発活動、資料の展示などを行っています。
TEL 0954-63-1622 / 休館日 不定休 / 開館 平日9:30~16:30、土日祝 10:00~16:00
(一般財団法人田澤記念館提供)



下村湖人生家 (神崎市千代田町崎村 895)

『次郎物語』の原稿をはじめ、湖人のゆかりの品々の展示がなされ「白鳥盛花(ろか)に入る」の石碑もあります。
TEL 0952-44-5167 / 休館日 月曜日、年末年始 / 開館 10:00~17:00(12~2月は、16:30まで)
(佐賀県観光連盟提供)



検索してみよう!

田澤青年団

湖人 校歌

日本青年館





譜代大名が次々と藩主になった唐津藩

現在の佐賀県には、江戸時代、佐賀藩（支藩などを含む）や唐津藩、対馬藩の飛び地、幕領がありました。それ以前の戦国時代に唐津地域で大きな勢力を持っていたのは松浦党の波多氏でしたが、豊臣秀吉によって領地を没収されてしまいます。

その後寺沢広高が唐津藩主となりますが、2代堅高の死により寺沢家は断絶します。一時幕領となったのち、大久保、松平、土井、水野、小笠原の譜代大名が次々と藩主となりました。その中には、天保の改革で知られる水野忠邦などもあります。